

自閉症・情緒障害特別支援学級児童における承認感・自己存在感を高めて 交流学級の児童との絆を深める自立活動の実践

林田 真一* ・ 松山 郁夫**

Practice of Independent Activities to Build a Mutual Trust Relationship to Children in Exchange Classes for Increase of Approval Feeling and Self-Esteem of Children in the Autism Spectrum and Emotional Disorder Class

Shinichi HAYASHIDA Ikuo MATSUYAMA

【要約】 A市立B小学校自閉症・情緒障害学級C組とD組の6年生計6名の児童に共通した課題は、交流学級における承認感が低いこと、及び「交流学級は居心地がよい」と思う気持ちが低いことである。そこで、学習計画において、C組とD組6名が交流学級へ出向き、子供達とお互いの良さを受けとめ合い、認め合う交流ゲーム(以下大ゲーム)をメイン活動と位置付け、最終的に実践することにし、初めに、6名一人一人に対して、その自己肯定感を高めることを目標としたゲームを実践した。次に、6名が大ゲームに、自主的に向き合えるよう、6名の中でお互いの良さを受けとめ合い、認め合うと同時に、大ゲーム実施に安心感と見通しをもたせるためのゲーム(以下ミニゲーム)を実践することにした。集団との関わりが苦手な各児童に対して、大ゲームを実施する意欲と自信をもたせるため、緩やかに積み上げていく自立活動を実践した。25時間の実践後、本実践のまとめの感想、各児童の行動観察、佐賀県教育センターの「がばいシート 平成20年度改訂版」(平成4年6月評価と平成5年1月評価の比較)から、本実践は、6名の児童が、交流学級の子供達を肯定的に受けとめる気持ちや交流学級における自己存在感を高める一助になったと考察された。

【キーワード】 自閉症・情緒障害学級、自立活動、ミニゲーム(大ゲーム実施に安心感と見通しをもたせる模擬体験ゲーム)、大ゲーム(交流学級の子供達とのゲーム)、友達の良さの肯定的受けとめ、承認感、交流学級における自己存在感

1. 問題提起

A市立B小学校自閉症・情緒障害学級C組、D組には、6年生6名の児童が在籍している。

C組E児は、表出された言葉や顔の表情から友達の気持ちを推測することが苦手である。

C組F児は、対人不安が強く、友達とうまく関係がつかれない。

C組G児は劣等感が強く、友達の言動を否定的に受けとめることが多い。友達とトラブルになることがある。

D組H児は、支援学級でも個別の一人部屋で過ごすことが多く、交流学級でも一人で過ごすことが多い。また、交流学級での承認感が低い。

D組I児は友達に関心を示さず、周りの言動を見聞きしていることが少ないため、友達とうまく関係が取れない。D組J児は自分に自信がもてず、友達に関わるのが苦手であり、孤独感が強い。

6月初旬に取った「がばいシート(佐賀県教育センター 平成20年度改訂版)」の結果から、この6名の児童に共通していることを抽出すると、クラスでの承認感が低いこととクラスに居心地のよさを感じて

*佐賀市立開成小学校 **佐賀大学教育学部

いないことが示された。この結果を受けて、担任は、個別に6名の児童と話をすることにした。すると、どの児童も「先生、そりゃあ、ぼく(わたし)も友達は欲しいよ。自分のよさを見てくれる友達が欲しい。交流学級は楽しいところであって欲しい」と言うのであった。担任は、この児童の気持ちが、その社会性を高めていくための強み(ストレングス)であると受けとめた。

ストレングスとしてのつながりは、「クライアントの有する属性や興味関心等に左右されることが多いが、これまでになかったつながりが生まれることで、生活システムに新たな相互作用や意味が生まれ、システムのゆらぎとなっていく。ストレングスを契機とした多様なゆらぎが創出されることで、生活システムの変革へとつながっていく」(直島, 2022)と主張されている。学校教育においても同様に、児童や周囲のストレングスを捉え、活用した取り組みは問題解決に有効であると考えられる。

学校教育の自立活動における取り組みに関しては、「ストレングス視点から、対象児の興味や関心を重視し、それを授業に取り入れたために、他児との関係性の中で楽しみの世界に児童が自ら入り、他児とともにある場が生じた」(林田・松山, 2019)。また、「ストレングス視点から他児との交流を豊かなものにするためには、対象児のストレングスが発揮できる役割を持たせるだけでなく、役割行為が容易になる配慮が求められよう」(林田・松山, 2020)と論及されている。したがって、学校教育におけるストレングス視点の有効性は高いと言える。

そこで、担任は交流学級に出向き、友達との関わり(ゲームやクイズ)により6名の承認感と自己存在感を高め、6名にとって交流学級が今以上に居心地のよい場所になるような取り組みを考えた。

取り組みでは、全体の流れとして、無理せず緩やかに、支援学級6名に実践内容を掴ませ、慣れさせるようにしていく。実践の中盤では、小集団の中で自分と友達を肯定的に受けとめ、お互いの承認感と自己存在感を高めるミニゲームやミニクイズを実践する。このミニゲームやミニクイズは、6名に交流学級で行うゲームやクイズに見通しを持たせる模擬体験ゲームや模擬体験クイズでもある。実践後半では、交流学級へ出向き、6名と他のクラスメイトがお互いを肯定的に理解し合い、認め合う大ゲームや大クイズを実践することにした。

スモールステップで無理せず実践を重ねること、模擬体験ゲームやクイズで実践への見通しを持たせることで、6名の児童における安心感と意欲を育み、自分なりに自信を持たせ、大ゲームや大クイズで成功体験を積み重ねていけば、少しずつ6名の児童の承認感と自己存在感を高め、交流学級の子供達と絆を強めることができるのではないかと考えた。

2. 実践目的

以上により、本研究の目的は、小学校自閉症・情緒障害特別支援学級の自立活動において、6名の児童にスモールステップで活動に慣れさせ、小ゲームで活動に安心感と見通しをもたせ、大ゲームで交流学級の児童とお互いのよさを受けとめ合い、認め合う成功体験を積み重ねることが、各児童の承認感と自己存在感の向上にどのような影響を及ぼすのかを考察することにした。

3. 実践内容

(1) 対象児の状態と課題

令和3年度において、自閉症・情緒障害特別支援学級C組、D組には、6名の6年生(内訳:6年1組3名、6年2組3名)の児童が在籍していた。各児童の課題は表1の通りであった。

表 1 各児童の課題

| | |
|---------|---|
| 6 年 E 児 | : 3 才まで米国で育ち、家庭では英語を話すことが多い。そのため、日本語の獲得語彙、表現語彙が少ない。他者と双方向のコミュニケーションをとることが苦手である。表出した言葉、振る舞い、表情から他者の気持ちを推測することが苦手である。 |
| 6 年 F 児 | : 友達を切実に欲しいと願っているにもかかわらず、対人不安が強いことと他者の言動を否定的に受けとめることが多いことから、以前、仲がよかった友達と疎遠になったり、現在の交流学級で友達とうまく関係がつかれなかったりしている。 |
| 6 年 G 児 | : 劣等感が強く、周りの友達が自分を否定的に受けとめているという気持ちが高い。周りに気を配らない言動があり、時々友達とトラブルになることがある。 |
| 6 年 H 児 | : 「ぼくは引っ込み思案です」とよく述べる。友達に認められたいという気持ちが高いが、1 人で過ごすことが好きなこと、遠慮や不安が強いことから、友達に関われず、交流学級での承認感が低い。 |
| 6 年 I 児 | : 友達に関心を示さず、自分のこだわりや興味があることに没頭することが多い。友達の言動を見聞きしていることが少ないため、友達と関係がうまく取れなかったり、集団行動でトラブルを起こしたりすることがある。 |
| 6 年 J 児 | : 自己肯定感が低く、自分に自信がもてないため、友達に関わるのが苦手であり、クラスでの承認感が低く、孤独感が強い。 |

(2) 研究の手順と分析方法

まず、自閉症・情緒障害学級 6 名の自己肯定感を上げるゲームを実践し、次に 6 名のお互いのよさの認め合いと大ゲーム実施への安心感と見通しをもたせるためのミニゲームを実践し、最後に 6 名と交流学級の児童が、お互いよさの受けとめ合い、認め合いをするための大ゲームを実践するにあたり、『高機能自閉症・アスペルガー障害・ADHD・LD の子の SST の進め方 田中和代・岩佐亜紀著 黎明書房』、『小学生のためのソーシャルスキル・トレーニング 渡辺弥里・藤枝静暁・飯田順子著 明治図書』、『社会性と情動の学習(SEL-8S)の進め方 小学校編 小泉令三・山田洋平著 ミネルヴァ』、『イラスト版 子どものソーシャルスキル 友達関係に勇気と自信がつく 42 のメソッド 相川充 猪刈恵美子著 合同出版』、『ピア・サポートではじめる学校づくり 滝充著 金子書房』等を参考にして進めることにした。

ゲーム(SST)は、1 学期後半から 3 学期のはじめまで 12 時間実施した。(本実践は、全 25 時間であるが、ゲーム実施以外の時間は、大ゲームを実施するための準備等に当てた。また、2 回目の大ゲーム実施が 3 学期の初めになったのは、コロナ対応のため、12 月に 2 回目の大ゲームが実施できなかったためである。)

各児童の変容については、令和 4 年 6 月に児童らから取ったアンケート(「がばいシート」佐賀県教育センター平成 20 年度改訂版)と令和 5 年 1 月に児童らから取った同アンケートを比較したもの、実践を通しての児童らの行動観察を行った。また、実践の最後の時間に書かせた児童らのふり返りの感想を分析し、その内容について検討した。

(3) 指導計画

指導計画について記す。段階的に活動に慣れさせ、児童の承認感と自己存在感を高めていくソーシャルスキル・トレーニング(以下 SST)を仕組み、表 2 の全体計画に従って実施していくことにした。

6 名共、語彙力が低い傾向にあったため、**第 1 段階**では語彙力を身に付けさせることで、自己肯定感を高めるゲームやクイズ(下記指導計画②～⑤)を実施した。**第 2 段階**では、6 名の小集団の中で自分と友達を肯定的に理解し、お互いを認め合うゲーム(⑥～⑦)を実施した。**第 3 段階**では、交流学級 6 年 1 組、2 組の子供達という大集団の中で、自他の肯定的理解と認め合いのゲームを行うための準備段階と位置付けてミニゲーム(交流学級での大ゲームに安心感と見通しを持たせるための模擬体験ゲーム)を実施した。さらに、大ゲーム進行上の役割分担や準備、進行リハーサル等(6 名の児童に、交流学級での大ゲームにおいて、主体者意識をもたせるためにゲームの運営をさせることにした)(⑧～⑰、⑱～㉔)

を実施した。そして、この流れの最後に第4段階として、交流学級との「ゲーム、クイズ交流会」(18、23～24)を実施することにした。

表2 全体計画

| 活動の主なめあてや活動 | SSTの活動名や準備活動 | 時配 |
|--|--|----|
| ○学習計画を立てる | ①がばいシート(承認感、自己存在感等のアンケート)記入と学習計画 | 1 |
| ○自分のよさに気づき、自己肯定感を高める | ②「仲間ことばゲーム」で自分のよさを見つけよう ③「反対語ゲーム」で自分のよさを見つけよう ④回文クイズ(1)で自分のよさを見つけよう ⑤回文クイズ(2)で自分のよさを見つけよう | 4 |
| ○小集団内で自分と友達を肯定的に理解する | ⑥「知っていますか?の友達よさ」 ⑦「気づいていますか?自分のよさ」 | 2 |
| ○6年1組、2組との「ごちゃまぜビンゴ交流会」と「この人はだれでしょう?交流会」の準備、練習 | ⑧「ミニミニごちゃまぜビンゴ(1)」 ⑨「ミニミニごちゃまぜビンゴ(2)」と交流会の役割分担 ⑩～⑬「ごちゃまぜビンゴ交流会」の準備、練習 ↓ ⑭「ミニミニこの人はだれでしょう?」と交流会の役割分担田 ⑮～⑯「この人はだれでしょう?交流会」の役割分担と準備、練習 ⑰「ごちゃまぜビンゴ」交流会のリハーサルと準備 ↓ | 10 |
| ○6年1組、2組との「ごちゃまぜビンゴ交流会」 | ⑩交流会(はじめの会→ごちゃまぜビンゴ→終わりの会)の実施 〔体育館で〕 | 1 |
| ○「この人はだれでしょう?」交流会の準備 | ⑱～⑳「この人はだれでしょう?交流会」①の準備リハーサルと交流会②の準備 ↓ | 3 |
| ○6年1組、2組との「この人はだれでしょう?」交流会① | ㉒交流会①(はじめの会→「知っていますか?私のこと」を一人一人が書く→終わりの会)の実施 〔6年1組、2組の各クラスで〕 | 1 |
| ○交流会②のリハーサル | ㉓はじめの会→「この人はだれでしょう?」クイズ→終わりの会のリハーサル | 1 |
| ○6年1組、2組との「この人はだれでしょう?」交流会② | ㉔交流会②(はじめの会→みんなで「この人はだれでしょう?」→終わりの会) 〔6年1組、2組教室で〕 | 1 |
| ○活動のふり返りをする | ㉕がばいシート記入と感想書き、発表 | 1 |

(4)実施内容

実施した内容については、次の表3から表21までの通りであった。

表3 第1回6月17日(金)2時間目

| | |
|------|---|
| 活動名 | がばいシートと仲よしペーパードッジボール |
| 主な活動 | 1 オリエンテーション(これから、自分や友達のよさや長所を見つけ合ったり、友達に仲よく楽しく関わったりすること等を学習していくことを知らせる。) 2 クラスの雰囲気やどう感じているか、友達のことをどう思っているか、自己存在感はどうか等をがばいシートに記入する。(佐賀県教育センター 平成20年度改訂版:子供の実態調査) 3 仲よしペーパードッジボールをする。 |

表4 第2回 6月24日(金)2時間目

| | |
|------|---|
| 活動名 | 仲間言葉クイズで自分と友達のよさを見つけよう! |
| 主な活動 | 1 仲間言葉クイズの説明を聞く。 2 チーム対抗で仲間言葉クイズをする。(3人対3人) 3 言葉の力アップ練習(仲間言葉のおさらい) 4 感想を書く。 5 仲よしペーパードッジボールをする。 |
| 主な感想 | E児: H君、頭がいい。G君、いろんな言葉を知っていて、すごいと思った。 G児: 難しい言葉を言えた。みんな、すごい、すごい。 |

| 問 題 | → | 答 え(何の仲間) |
|---------------|---|-----------|
| 1 バラ や 朝顔 | → | 花(植物) |
| 2 カブトムシ や ハチ | → | 虫(昆虫) |
| 3 キュウリ や だいこん | → | 野 菜 |
| 4 パター や チーズ | → | 乳製品・・・等 |

表5 第3回 7月1日(金)2時間目

| 活動名 | 反対語探しクイズをして、自分と友達のよさを見つけよう！ | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|--|----|------------|------|------|------|------|------|------|------|--------|
| 主な活動 | 反対語クイズ <table border="1"> <tr> <th>問題</th> <th>答え(反対語は何?)</th> </tr> <tr> <td>1 暑い</td> <td>→ 寒い</td> </tr> <tr> <td>2 厚い</td> <td>→ 薄い</td> </tr> <tr> <td>3 便利</td> <td>→ 不便</td> </tr> <tr> <td>4 赤字</td> <td>→ 黒字・等</td> </tr> </table> | | 問題 | 答え(反対語は何?) | 1 暑い | → 寒い | 2 厚い | → 薄い | 3 便利 | → 不便 | 4 赤字 | → 黒字・等 |
| 問題 | 答え(反対語は何?) | | | | | | | | | | | |
| 1 暑い | → 寒い | | | | | | | | | | | |
| 2 厚い | → 薄い | | | | | | | | | | | |
| 3 便利 | → 不便 | | | | | | | | | | | |
| 4 赤字 | → 黒字・等 | | | | | | | | | | | |
| | 1 反対語クイズの説明を聞く。 2 チーム対抗反対語クイズをする。(2人対2人対2人) 3 言葉の力アップ練習(反対語のおさらい) 4 感想を書く。 5 仲よしペーパードッジボールをする。 | | | | | | | | | | | |
| 主な感想 | H児：いっぱい発表ができた。G君がいっぱい難しい言葉を言えて、すごかった。 J児：「赤字」の反対言葉、「黒字」が言えて、よかった。E児、17問目の反対言葉がすごく速かった。すごかった。 | | | | | | | | | | | |

表6 第4回 7月15日(金)2時間目

| 活動名 | 回文クイズ(1)をして、自分と友達のよさを見つけよう！ | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|-------------------|----|---|-----------------|-------|---|-------------|-------|---|------------|---------|---|------------------|---------|---|-------------------|
| 主な活動 | 回文クイズ(1) <table border="1"> <tr> <th>問題</th> <th>→</th> <th>答え(□にひらがな、回文完成)</th> </tr> <tr> <td>う□う□う</td> <td>→</td> <td>うたうたう(歌うたう)</td> </tr> <tr> <td>り□が□り</td> <td>→</td> <td>りかがかり(理科係)</td> </tr> <tr> <td>い□□べ□□い</td> <td>→</td> <td>いかたべたかい(イカ食べたかい)</td> </tr> <tr> <td>たし□に□した</td> <td>→</td> <td>たしかにかした(確かに貸した) 等</td> </tr> </table> | | 問題 | → | 答え(□にひらがな、回文完成) | う□う□う | → | うたうたう(歌うたう) | り□が□り | → | りかがかり(理科係) | い□□べ□□い | → | いかたべたかい(イカ食べたかい) | たし□に□した | → | たしかにかした(確かに貸した) 等 |
| 問題 | → | 答え(□にひらがな、回文完成) | | | | | | | | | | | | | | | |
| う□う□う | → | うたうたう(歌うたう) | | | | | | | | | | | | | | | |
| り□が□り | → | りかがかり(理科係) | | | | | | | | | | | | | | | |
| い□□べ□□い | → | いかたべたかい(イカ食べたかい) | | | | | | | | | | | | | | | |
| たし□に□した | → | たしかにかした(確かに貸した) 等 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 回文クイズ(1)の説明を聞く。 2 チーム対抗回文クイズをする。 3 言葉の力アップ練習(回文①のおさらい) 4 回文クイズの感想を述べ合う。 5 感想を書く。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主な感想 | G児：あんまり、言えなかったけど、よく分かった。Jさんがよく言えた。 H児：I児：ぼくは、頭がさまよっていた。E君は頭がいいと思った。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

表7 第5回 9月2日(金)2時間目

| 活動名 | 回文クイズ(2)をして、自分と友達のよさを、もっと見つけよう！ | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|---------------------|----|---|-----------------|----------|---|------------------|-----------|---|---------------------|---------|---|-------------------|
| 主な活動 | 回文クイズ(2) <table border="1"> <tr> <th>問題</th> <th>→</th> <th>答え(□にひらがな、回文完成)</th> </tr> <tr> <td>ね□□つつ□□ね</td> <td>→</td> <td>ねんまつつまんね(年末つまんね)</td> </tr> <tr> <td>か□け□な□け□か</td> <td>→</td> <td>かんけいがないけんか(関係ないケンカ)</td> </tr> <tr> <td>に□□ん□□に</td> <td>→</td> <td>にがさんさがに(逃がさん佐賀に)等</td> </tr> </table> | | 問題 | → | 答え(□にひらがな、回文完成) | ね□□つつ□□ね | → | ねんまつつまんね(年末つまんね) | か□け□な□け□か | → | かんけいがないけんか(関係ないケンカ) | に□□ん□□に | → | にがさんさがに(逃がさん佐賀に)等 |
| 問題 | → | 答え(□にひらがな、回文完成) | | | | | | | | | | | | |
| ね□□つつ□□ね | → | ねんまつつまんね(年末つまんね) | | | | | | | | | | | | |
| か□け□な□け□か | → | かんけいがないけんか(関係ないケンカ) | | | | | | | | | | | | |
| に□□ん□□に | → | にがさんさがに(逃がさん佐賀に)等 | | | | | | | | | | | | |
| | 1 チーム対抗回文クイズ(2)をする。 2 回文クイズ(2)のおさらいをする。 3 回文クイズ(2)の感想を述べ合う。 4 感想を書く。 | | | | | | | | | | | | | |
| 主な感想 | F児：たくさん答えることができた。楽しかった。E君とH君が協力してやっていた。 I児：自分は勘がいいと思った。C君もすごかった。 | | | | | | | | | | | | | |

表8 第6回 9月9日(金)2時間目

| | | |
|-------------|--|--|
| 活動名 | 友達の『よさ』を見つけ、プレゼントしよう。 | |
| 主な活動 | 1 自分以外の5名の友達の『よさ』を『よさプレゼントシート』に書く。 2 友達を書いてくれた自分の『よさ』を『自分へのプレゼントシート』に写す。 3 『自分へのプレゼントシート』を見ての感想を書く。 4 感想を発表し合う。 | |
| 主な感想 | E児：みんなが、ぼくのいいところをたくさん知っていてくれてうれしかった。 F児：「やさしい」、「歌がうまい」、「ゲームがうまい」と書いてくれていたことがうれしかった。 | |

表9 第7回 9月16日(金)2時間目

| | | |
|-------------|--|--|
| 活動名 | 自分を知って、もっと自分を好きになろう | |
| 主な活動 | 1 『自分シート』に「自分のこと」、「自分の得意なこと」、「自分のよいところ」を書く。 2 『自分シート』に書いたことを発表する。 3 『自分シート』に書いたことについて、友達からメッセージをもらう。 4 メッセージを読み、感想を書く。 5 感想を発表し合う。 | |

表 10 第 8 回 9 月 30 日(金)2 時間目

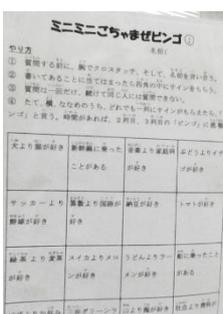
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|---|-------------|--------------|------------|-------------|-------------|-----------|-------|--------|-----------|-------------|--------------|------------|-------------|--------------------|---------|-----------|
| 活動名 | ミニミニごちゃまぜビンゴ①をしよう | 4 マス× 4 マス=16 マスの少人数用に作ったビンゴシート  | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 活動内容と目的 | 交流学級(6年1組、2組)との大ゲーム(ごちゃまぜビンゴ交流会)の模擬体験ゲーム(ミニゲーム)である。ミニミニごちゃまぜビンゴ①をすることにより、6名の小集団内で認め合いをすること、大ゲームへの見通しと実践意欲をもたせることを目的としている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主な活動 | 1 ミニミニごちゃまぜビンゴのルール説明を聞く。 2 ミニミニごちゃまぜビンゴをする。 3 ビンゴシート後の感想を書く。 4 ルールやビンゴシートの内容で修正した方がいいところはないか話し合う。 | <table border="1"> <tr> <td>犬より猫がすき</td> <td>新幹線に乗ったことがある</td> <td>音楽より家庭科がすき</td> <td>ぶどうよりイチゴがすき</td> </tr> <tr> <td>サッカーより野球がすき</td> <td>算数より国語がすき</td> <td>納豆がすき</td> <td>トマトがすき</td> </tr> <tr> <td>緑茶より麦茶がすき</td> <td>スイカよりメロンがすき</td> <td>うどんよりラーメンがすき</td> <td>船に乗ったことがある</td> </tr> <tr> <td>ピザよりお好み焼がすき</td> <td>三井グリーンランドに行ったことがある</td> <td>山より海がすき</td> <td>社会より理科がすき</td> </tr> </table> | 犬より猫がすき | 新幹線に乗ったことがある | 音楽より家庭科がすき | ぶどうよりイチゴがすき | サッカーより野球がすき | 算数より国語がすき | 納豆がすき | トマトがすき | 緑茶より麦茶がすき | スイカよりメロンがすき | うどんよりラーメンがすき | 船に乗ったことがある | ピザよりお好み焼がすき | 三井グリーンランドに行ったことがある | 山より海がすき | 社会より理科がすき |
| 犬より猫がすき | 新幹線に乗ったことがある | 音楽より家庭科がすき | ぶどうよりイチゴがすき | | | | | | | | | | | | | | | |
| サッカーより野球がすき | 算数より国語がすき | 納豆がすき | トマトがすき | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緑茶より麦茶がすき | スイカよりメロンがすき | うどんよりラーメンがすき | 船に乗ったことがある | | | | | | | | | | | | | | | |
| ピザよりお好み焼がすき | 三井グリーンランドに行ったことがある | 山より海がすき | 社会より理科がすき | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主な感想 | F児：楽しかったけど、ルールが分かりづらいところがあった。 G児：友達と質問し合って、3つビンゴができて、よかった。 J児：むずかしかったけど、楽しかったです。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 11 第 9 回 10 月 7 日(金)2 時間目

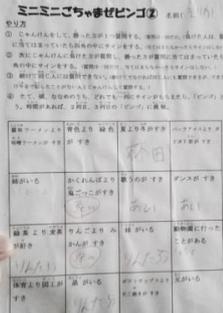
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-------------------|-----------------|---------|-----------------|------|----------------|--------|--------|-----------|-------------|------|--------------|-----------|------|------------|------|
| 活動名 | ミニごちゃまぜビンゴ②とごちゃまぜビンゴ交流会の役割分担 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主な活動 | 今回は、9月30日の『ミニミニごちゃまぜビンゴ①』実施後の感想と話し合いで出たルールとビンゴシートのマスの内容を修正したビンゴシート②で再度、ビンゴゲームをした。 ルールは、「エルボータッチをして自己紹介をしあってからじゃんけん」だったのを「すぐにじゃんけん」など、簡潔にした。 ビンゴのマスの内容は、ビンゴシート①よりも児童らの身近な話題になるようにした。そして、ビンゴゲーム②の実施後、感想を書かせた。その後、大ゲーム(6年1組、2組とのごちゃまぜビンゴ交流会)での役割分担をした。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修正版ビンゴシート② |  <table border="1"> <tr> <td>醤油ラーメンより味噌ラーメンがすき</td> <td>パニライスよりガリガリ君がすき</td> <td>夏より冬がすき</td> <td>パニライスよりガリガリ君がすき</td> </tr> <tr> <td>兄がいる</td> <td>家庭科で作った料理はおいしい</td> <td>歌うのがすき</td> <td>ダンスがすき</td> </tr> <tr> <td>緑茶より麦茶がすき</td> <td>りんごよりみかんがすき</td> <td>姉がいる</td> <td>動物園に行ったことがある</td> </tr> <tr> <td>体育より図工がすき</td> <td>弟がいる</td> <td>ポテトチップスがすき</td> <td>妹がいる</td> </tr> </table> | 醤油ラーメンより味噌ラーメンがすき | パニライスよりガリガリ君がすき | 夏より冬がすき | パニライスよりガリガリ君がすき | 兄がいる | 家庭科で作った料理はおいしい | 歌うのがすき | ダンスがすき | 緑茶より麦茶がすき | りんごよりみかんがすき | 姉がいる | 動物園に行ったことがある | 体育より図工がすき | 弟がいる | ポテトチップスがすき | 妹がいる |
| 醤油ラーメンより味噌ラーメンがすき | パニライスよりガリガリ君がすき | 夏より冬がすき | パニライスよりガリガリ君がすき | | | | | | | | | | | | | | |
| 兄がいる | 家庭科で作った料理はおいしい | 歌うのがすき | ダンスがすき | | | | | | | | | | | | | | |
| 緑茶より麦茶がすき | りんごよりみかんがすき | 姉がいる | 動物園に行ったことがある | | | | | | | | | | | | | | |
| 体育より図工がすき | 弟がいる | ポテトチップスがすき | 妹がいる | | | | | | | | | | | | | | |
| 主な感想 | F児：ビンゴができてよかった。6年1組、2組と一緒にできるか不安だけど、成功したら、うれしい。 H児：4ビンゴできた。楽しかった。 J児：前より分かりやすかった。ミニミニごちゃまぜビンゴ、とっても楽しかった。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 12 第 10 回~第 13 回 10 月 19 日(水)1 時間目、10 月 21 日(金)2 時間目、10 月 26 日(水)1 時間目、10 月 28 日(金)2 時間目

| | |
|-------------|---|
| 活動名 | ごちゃまぜビンゴ交流会の準備をしよう |
| 主な活動 | 10/19 10月7日の役割分担(ごちゃまぜビンゴ交流会のはじめの会の司会：H児、はじめの言葉：E児、ごちゃまぜビンゴのやり方の説明：F児・I児・J児、終わりの言葉：G児)に沿って、担任がたたき台として準備した各役割のシナリオの読み合わせを2回し、シナリオで修正した方がいいところを話し合った。 10/21 : 10月19日の読み合わせと話し合いで修正したシナリオの読み合わせを1回、ごちゃまぜビンゴ交流会の終わりの会の役割分担(司会進行：E児、はじめの言葉：G児、ごちゃまぜビンゴをやったの感想を書くお願い：H児・J児、終わりの言葉と次回交流会の予告：F児・I児)に沿って、担任がたたき台として準備した各役割のシナリオの読み合わせを1回し、シナリオで修正した方がいいところを話し合った。 10/26 : 各役割に分かれて、交流会のプログラム、交流会のめあて、ごちゃまぜビンゴを説明するときのビンゴ用紙等を広用紙に書いて作った。 10/28 : プログラム、めあて、説明用紙の仕上げをした後、体育館で6年1組、2組とのごちゃまぜビンゴ交流会のリハーサルをした。 |

表 13 第 14 回 11 月 2 日(水)1 時間目

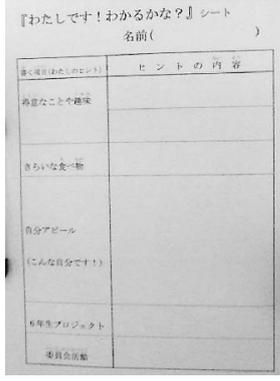
| 活動名 | ミニミニ「この人はだれでしょう？」をしよう | ミニミニ「この人はだれでしょう？」シート  | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|--|-----|---------|----------|--|---------|--|------------------|--|-----------|--|---------|--|--|
| 活動内容と目的 | 「ごちゃまぜビンゴ交流会」の次の交流学級(6年1組、2組)との大クイズ大会「この人はだれでしょう？」交流会の模擬体験クイズ(ミニクイズ)である。このミニミニ「この人はだれでしょう？」クイズをすることにより、大クイズ大会への見通しと実践意欲をもたせることを目的としている。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 主な活動 | 1 ミニミニ「この人はだれでしょう？」のルールの説明を聞く。 2 ミニミニ「この人はだれでしょう？」をする。 3 クイズ後の感想を書く。 4 ルールやクイズシートの内容で修正した方がいいところはないか話し合う。 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>各項目</th> <th>私ヒントの内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>得意なことや趣味</td> <td></td> </tr> <tr> <td>きれいな食べ物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自分アピール(こんな自分です!)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6年生プロジェクト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>住んでいる町区</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 各項目 | 私ヒントの内容 | 得意なことや趣味 | | きれいな食べ物 | | 自分アピール(こんな自分です!) | | 6年生プロジェクト | | 住んでいる町区 | | |
| 各項目 | 私ヒントの内容 | | | | | | | | | | | | | | |
| 得意なことや趣味 | | | | | | | | | | | | | | | |
| きれいな食べ物 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自分アピール(こんな自分です!) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6年生プロジェクト | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住んでいる町区 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主な感想 | E児：ミニミニ「この人はだれでしょう？」は楽しかった。「自分アピール」のところをおもしろくかけるよう、何かアイデアはないかな?と思った。 F児：人をあてるところがおもしろかった。「すきなキャラクター」のらんがあってもいいと思った。 G児：意外とかんたんで楽しかった。「すきなアニメ」のらんがあつたらいいと思う。 | | | | | | | | | | | | | | |

表 14 第 15 回～第 16 回 11 月 4 日(金)2 時間目、11 月 9 日(水)1 時間目

| | | | |
|--|---|--|--|
| 活動名 | 「この人はだれでしょう？」交流会①の準備をしよう | | |
| 「この人はだれでしょう？」交流会について 「この人はだれでしょう？」は交流会①と交流会②に分けた。交流会①は、E児、F児、G児は6年2組で、H児、I児、J児は6年1組で「この人はだれでしょう？」クイズの説明、「わたしです！わかるかな？」シートの書き方の説明等をした後、クラスごとに「わたしです！わかるかな？」シートを書く会にした。 交流会②は「この人はだれでしょう？」クイズの本番で、6年1組、2組を、それぞれ4グループに分けて体育館でグループごとにクイズをすることにした。(11/4と11/9の自立活動は、交流会①の準備の時間である。) | | | |
| 主な活動 | 11/4 : 11/2 の役割分担(6年1組→司会進行：H児、クイズの説明：I児、「わたしです！わかるかな？」シートの書き方説明：J児 6年2組→司会進行：G児、クイズの説明：E児、「わたしです！わかるかな？」シートの書き方説明：F児)をもとに担任が作ったシナリオの読み合わせをした後、シナリオで修正した方がいいところ、「わたしです！わかるかな？」シートで修正した方がいいところについて話し合った。 11/9 : 修正シナリオの読み合わせを1回、修正「わたしです！わかるかな？」シート(シートの最後の「住んでいる町区」は個人情報になるというF児、E児の意見を入れ、「委員会活動」に修正)をもとに、説明のための、その拡大版や交流会①のプログラム等の作成を行った。 | | |

表 15 第 17 回 11 月 11 日(金)2 時間目

| | | | |
|------|---|--|--|
| 活動名 | 「ごちゃまぜビンゴ」交流会のリハーサルをしよう | | |
| 主な活動 | 6年1組、2組との「ごちゃまぜビンゴ」交流会のリハーサルを、会場となる体育館で、E児、F児、G児、H児、I児、J児と一緒にした。移動黒板にプログラムやめあて、ビンゴのやり方説明用の広用紙等を貼って、「はじめの会」と「終わりの会」を2回ずつ行った。 | | |

表 16 第 18 回 11 月 14 日(月)3 時間目

| | | | | | |
|---|---|--|--|--|--|
| 活動名 | 6年1組、2組の友達と「ごちゃまぜビンゴ」交流会をしよう | | | | |
| 活動内容と目的 | <p>ビンゴゲームを通して、C組の児童と6年2組の児童らが、D組の児童と6年1組の児童らが、お互いを肯定的に理解し合い、認め合うことを目的として交流会を行った。</p> <p>体育館北側半分のスペースで、E児、F児、G児と6年2組の児童らが、体育館南側半分のスペースでH児、I児、J児と6年1組の児童らが「ごちゃまぜビンゴ」をした。6年2組担任のL先生、6年1組担任のK先生もビンゴゲームに参加してくださった。</p> | | | | |
| 主な活動(プログラム) | <p>◎ ビンゴゲームは、6年1組、6年2組別々のスペースで行ったが、交流会の「はじめの会」と「終わりの会」は、E児、F児、G児、H児、I児、J児が司会進行、めあての発表、「ごちゃまぜビンゴ」ゲームのやり方やルールの説明等をして、6年1組、2組合同で行った。</p> <p>1 はじめの会</p> <p>2 「ごちゃまぜビンゴ」ゲーム</p> <p>3 終わりの会(ゲームの感想を書くのも含む)</p> | | | | |
| 活動の様子 | <p>ビンゴゲームは、15分の時間で行った。担任が予想した以上にE児、F児、G児、6年2組の児童ら、そして、H児、I児、J児、6年2組の児童らが活発に動き、ビンゴシートに書いてあることを質問したり、質問に答えたりしていた。質問の答えに笑ったり、はしゃいだりする児童も多かった。</p> <p>C組、D組の中でも、友達に関わることに不安感が強いF児、J児のところにもたくさんの交流学級の児童らが来ていた。時間がきて、担任が「終わりの会をするので、はじめの会で座っていた場所に戻ってください」と言っても、みんな、まだ、ビンゴゲームを続けていた。20分を過ぎたころ、ようやく、はじめの会の場所に戻ってくれた。</p> | | | | |
| C組、D組(6名)の感想 | <p>E児：たくさんの友達に関わられた。3つビンゴができてうれしかった。</p> <p>F児：みんながさそってくれて、ありがとうと思った。はずかしかったけど、うれしかった。</p> <p>G児：みんなに質問したり、答えたりできた。</p> <p>H児：ビンゴが7つもできてよかった。いろいろな人と交流できてよかった。</p> <p>I児：楽しかった。友達に関わることでよかった。</p> <p>J児：いろんな友達と交流できてよかった。</p> | | | | |
| 6年1組、2組の子供達の主な感想(交流学級の子供達みんなが、まず、「ビンゴゲームは楽しかった」と書いていた) | <p>6の2M児：女子とF児に質問したり、答えたりできた。男子とはいっぱいできた。次もあれば、もっといろんな人に関わりたい。</p> <p>6の2N児：楽しかった。ふだん、あまりしゃべらない人たちに質問できてよかった。</p> <p>6の2O児：とても楽しかった。男子同士だけでなく、みんなで活動できてよかった。この活動でクラスの絆が深まったかなと思った。</p> <p>6の1P児：楽しかった。ふだん、あまり話さない人とも関わられたのでよかった。</p> <p>6の1Q児：クラスのみんなと、たくさんしゃべったりする機会は、あまりなかったからよかった。</p> <p>6の1R児：楽しかった。あまり話していない人のことを知ったりできた。仲よしの人も、ふだんの生活の中で知れないこともたくさん聞けたのでよかった。いろいろな人と交流できた。</p> | | | | |

表 17 第 19 回～第 21 回 11 月 16 日(水)1 時間目、11 月 18 日(金)2 時間目、11 月 21 日(月)2 時間目

| | |
|-------------|--|
| 活動名 | 「この人はだれでしょう？」交流会(1)と交流会(2)の準備、リハーサルをしよう |
| 主な活動 | <p>11/16 : 「この人はだれでしょう？」交流会①と交流会②の役割分担と担任作成のシナリオの読み合わせをし、シナリオで変更、修正した方がよいところはないか話し合った。</p> <p>11/18 : 交流会①と交流会②のプログラムや「わたしです！わかるかな？」シートの書き方説明用の広用紙、グループで「わたしです！わかるかな？」クイズをするときの場所やルール説明用の広用紙等の作成をした。</p> <p>11/21 : 11/18 の作業の続きと「この人はだれでしょう？」交流会①のリハーサル</p> |

表 18 第 22 回 11 月 25 日(金)2 時間目

| 活動名 | 6 年 1 組、2 組との「この人はだれでしょう？」交流会① | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|-------------------|--|------|-------------|--------------|--|---------|--|----------------------|--|------------|--|-------|--|
| 活動内容と目的 | <p>交流会①は、交流会②(クイズ本番)をするために、1 組(H 児、I 児、J 児も含む)、2 組(E 児、F 児、G 児も含む)の児童全員がクイズのための「わたしです！わかるかな？」シートを書き、完成させることを目的として実施した。6 年 1 組、2 組、各クラスに分かれて実施した。</p> <p>1 組の児童らは、H 児、I 児、J 児からシートの書き方やクイズのルール等を聞いて、2 組の児童らは、H 児、I 児、J 児からシートの書き方やクイズのルール等を聞いて、「わたしです！わかるかな？」シート書いた。</p> | <table border="1"> <tr> <th colspan="2">『わたしです！わかるかな？』シート</th> </tr> <tr> <th>書く項目</th> <th>わたしのこと(ヒント)</th> </tr> <tr> <td>得意なことや趣味(2つ)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>きれいな食べ物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自分アピール (こんな自分です！)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 年生プロジェクト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>委員会活動</td> <td></td> </tr> </table> | 『わたしです！わかるかな？』シート | | 書く項目 | わたしのこと(ヒント) | 得意なことや趣味(2つ) | | きれいな食べ物 | | 自分アピール (こんな自分です！) | | 6 年生プロジェクト | | 委員会活動 | |
| | | 『わたしです！わかるかな？』シート | | | | | | | | | | | | | | |
| 書く項目 | わたしのこと(ヒント) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 得意なことや趣味(2つ) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| きれいな食べ物 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自分アピール (こんな自分です！) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 年生プロジェクト | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員会活動 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 年 1 組での活動 | 6 年 2 組での活動 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○司会進行：H 児 | ○司会進行：G 児 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 はじめの言葉：H 児 | 1 はじめの言葉：G 児 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 『この人はだれでしょう？』クイズのルール説明：I 児 | 2 『この人はだれでしょう？』クイズのルール説明：E 児 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 『わたしです！わかるかな？』シートの書き方説明：J 児 | 3 『わたしです！わかるかな？』シートの書き方説明：F 児 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 2 組の児童ら((H 児、I 児、J 児も含む)がそれぞれ『わたしです！わかるかな？』シートを書く。 | 4 2 組の児童ら((E 児、F 児、G 児も含む)がそれぞれ『わたしです！わかるかな？』シートを書く。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 シートの回収：H 児、I 児、J 児 | 5 シートの回収：E 児、F 児、G 児 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 終わりの言葉：H 児 | 6 終わりの言葉：G 児 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 活動の様子 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1 組の児童も、2 組の児童も時間をかけて真剣に『わたしです！わかるかな？』シートを書いていた。1 組では、サッカーをしている児童が『得意なことや趣味』の欄に『サッカー』と書かないので、担任が「どうして、サッカーと書かないの？」と尋ねたら、その子供は「サッカーと書けば、すぐに、ぼくだとばれるから」と答え、『スポーツ』と書いた。</p> <p>2 組では、同じく『得意なことや趣味』の欄に『歌』と書くのを迷っていて、担任が「どうして、書かないの？」と尋ねると、「歌は、好きで得意だけど、それを自分から書くのは恥ずかしい」と答えた。担任が「本当にうまいんだから、書けば・・・」と言うと、「うん」と言って『歌』と書いた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 19 第 23 回 令和 5 年 1 月 11 日(水)1 時間目

| | |
|--|--|
| 活動名 | 「この人はだれでしょう？」交流会(2)のリハーサルと「わたしです！わかるかな？」クイズを出す練習をしよう |
| 第 23 回の交流会②のリハーサル等と 24 回の交流会②「わたしです！わかるかな？」クイズが 12 月にできなかったわけ | |
| <p>コロナ禍の影響が続き、12 月中に交流会②のリハーサル等や「この人はだれでしょう？」交流会②(本番、6 年 1 組、2 組との「わたしです！わかるかな？」クイズ等)ができなかった。そこで、3 学期始まってすぐに実施することにした。</p> | |
| 第 23 回の交流会②のリハーサル等でしたこと | |
| <p>寒い中であるため、担任が交流学級の担任と話し、活動場所を体育館から交流学級 6 年 1 組と 6 年 2 組でやることに変えた。そこで、6 年 1 組では、H 児が 1 号車で、I 児が 2 号車で、J 児が 3 号車で「わたしです！わかるかな？」クイズの問題を出すことになり、6 年 2 組では、E 児が 1 号車で、F 児が 2 号車で、G 児が 3 号車で問題を出すことになった。</p> <p>まず、6 年 1 組の H 児、I 児、J 児と 6 年 2 組の E 児、F 児、G 児に、クラスごとにプログラムに沿ってリハーサルをさせ、次に、これもクラスごとに「わたしです！わかるかな？」シートを号車の友達の受け答えのペースに合わせてながら、読んで出す練習をさせた。</p> | |

表 20 第 24 回 1 月 13 日(金)2 時間目

| <p>活動名</p> | <p>1、2組の友達と交流会②で「わたしです！わかるかな？」クイズをし、もっと知り合い、仲よくなる</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|-------------------|--|------|-------------|--------------|--|---------|--|------------------|--|-----------|--|-------|--|
| <p>活動内容と目的</p> | <p>交流会②は、「わたしです！わかるかな？」クイズ本番である。 H児、I児、J児は1組で問題を出し、E児、F児、G児は2組で問題を出した。例えば、H児の「わたしです！わかるかな？」シート(問題)は1号車の友達のシートの中に重ねて、H児が号車の友達のシート(問題)を出しつつ、H児自身が出した。I児、J児、E児、F児、G児も同じである。 6名は各号車の友達の答える声や振る舞いを受けとめながら問題を出すことができた。1組も2組も笑顔で盛り上がっていた。</p> | <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">『わたしです！わかるかな？』シート</th> </tr> <tr> <th>書く項目</th> <th>わたしのこと(ヒント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>得意なことや趣味(2つ)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>きれいな食べ物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自分アピール(こんな自分です！)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6年生プロジェクト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>委員会活動</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 『わたしです！わかるかな？』シート | | 書く項目 | わたしのこと(ヒント) | 得意なことや趣味(2つ) | | きれいな食べ物 | | 自分アピール(こんな自分です！) | | 6年生プロジェクト | | 委員会活動 | |
| 『わたしです！わかるかな？』シート | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 書く項目 | わたしのこと(ヒント) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 得意なことや趣味(2つ) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| きれいな食べ物 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自分アピール(こんな自分です！) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6年生プロジェクト | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委員会活動 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>6年1組での活動 ○司会進行：H児 1 はじめの言葉：H児 2 クイズのやり方の説明：J児 3 「わたしです！わかるかな？」クイズ 1号車で問題を読む人：H児 2号車：I児 3：J児 4 感想を書く：1組全員 5 感謝の言葉：I児 6 終わりの言葉：H児</p> | <p>6年2組での活動 ○司会進行：G児 1 はじめの言葉：G児 2 クイズのやり方の説明：E児 3 「わたしです！わかるかな？」クイズ 1号車で問題を読む人：E児 2号車：F児 3：G児 4 感想を書く：2組全員 5 感謝の言葉：F児 6 終わりの言葉：G児</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>C組、D児(6名)の感想 E児：問題を出すのが難しかったけど、楽しかったです。 F児：問題を出すのは初めてだったので、すごく緊張したけど、楽しかった。うまく問題を出すことができた。 G児：ちゃんと(問題を)読めたのでよかったです。楽しかったです。 H児：ぼくは、クイズをしたみんなと仲よくなれたと思います。 I児：ちょっとだけど、楽しかったです。 J児：いろんな人と交流できて、とても楽しかったです。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>6年1組、2組の子供達の主な感想 6の1 K児：得意なことや趣味で大体(誰だか)わかったので、すごいと思いました。 6の1 L児：得意なことや趣味、きれいな食べ物などですぐわかり、おもしろかったです。自分アピールにおもしろいことが書かれていて、爆笑でした。 6の1 M児：みんなのち趣味や得意なことが分かった。人生楽しい。 6の1 O児：友達のことをたくさん知ったり、自分だと当ててもらえたことが、うれしかったです。 6の2 P児：号車の人のことを、たくさん知れて楽しかったです。友達のこと、知っているようで、わりと知らないことが多かったのにおどろきました。 6の2 Q児：みんなのことをよく知ることができました。気になっていることを知ることができて、うれしかったです。また、やりたいなと思いました。 6の2 R児：おもしろかった。きれいな食べ物がとても以外だった。 6の2 S児：めっちゃおもしろかったです。いつも話している友達の知らない部分が知れて楽しかったです。きれいな食べ物が、みんな以外でした。自分アピールが、みんなおもしろかったです。 6の2 T児：ぼくの問題が分かりにくすぎて、みんながとまどっていました。みんなの問題は、簡単すぎました。楽しかったです。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 21 第 25 回 1 月 18 日(水)1 時間目

| | |
|---|-----------------|
| 活動名 | 今までの活動のふり返りをしよう |
| <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの雰囲気はどう感じているか、の友達ことをどう思っているか、自己存在感はどうか等をがばいシート(佐賀県教育センター 平成 20 年度改訂版)に記入する。 ・活動全体を通しての感想を書く。 | |

4. 実践結果(E 児、F 児、G 児、H 児、I 児、J 児、個々の結果)

・E 児(男子:V1 組 交流学級 6 年 2 組)

E 児は、ふり返りの感想に『ごちゃまぜビンゴ交流会』で、友達とビンゴをやって楽しかった。話す友達が、前より増えた」と書いた。しかし、がばいシートの『学級(6 年 2 組)の肯定的受けとめ』は R5。1 月と R4。6 月を比べると-2 ポイント、『友達との関係の肯定的受けとめ』は-5 ポイントであった。これには理由があり、E 児は三学期になってから、数名のクラスメイトから名前に「～リン」をつけるあだ名を言われていた。担任は、そのあだ名に、むしろ親しみを感じた。恐らく、クラスメイトも親しみを込めて呼んでいたようである。

| 項 目 | 6/17 | 1/18 | 比較 |
|---------------------|------|------|----|
| 学級を肯定的に受けとめているか | 14 | 12 | -2 |
| 友達との関係を肯定的に受けとめているか | 16 | 11 | -5 |
| 学級での自己存在感は高い、低い | 15 | 17 | +2 |

しかし、生真面目で、友達の言動から、その気持ちを読み取ることが苦手な E 児は、そのあだ名が嫌いで、それががばいシートに記入したと話してくれた。E 児の生真面目さ、融通が利かないところ、気持ちを読むのが苦手なところは変わらない。しかし、『(クラスにおける)自己存在感』は+2 ポイントであった。E 児の感想と併せて考えると、交流会をきっかけとして、E 児のクラスにおける認められ感は少しずつ高まってきていると捉えられる。

しかし、生真面目で、友達の言動から、その気持ちを読み取ることが苦手な E 児は、そのあだ名が嫌いで、それががばいシートに記入したと話してくれた。E 児の生真面目さ、融通が利かないところ、気持ちを読むのが苦手なところは変わらない。しかし、『(クラスにおける)自己存在感』は+2 ポイントであった。E 児の感想と併せて考えると、交流会をきっかけとして、E 児のクラスにおける認められ感は少しずつ高まってきていると捉えられる。

・F 児(女子:V1 組 交流学級 6 年 2 組)

F 児は、ふり返りの感想に『この人はだれでしょう？交流会』で 2 号車の人が、静かに自分が出す問題を聞いてくれたこと、自分にちゃんと答えを言ってくれたことがうれしかった。自分の元気を 100%だすことができ満足。クラスは、自分も含め、男女話すことが増えてきたけど、その分、ケンカもある。自分は、友達がちょこっと増えたと思う」と書いた。不安感から友達になかなか心を開かず、会話や関わりを拒む F 児である。「会話は増えたが、その分ケンカもある」と書いたところに F 児が「友達にかかわることは、必ずしもいいことばかりではない」と思っていることがわかる。がばいシート(6/17 と 1/18 の比較)の『友達関係』が-3 ポイントなどは、その現れであろう。しかし、それでも F 児は、感想に「友達が、ちょこっと増えた。」と書いている。担任は、F 児に、友達に関わろうとする意欲が見られるとまでは言い切れないが、迷いつつも友達に関わることに関心を向け始めているということを感じている。

| 項 目 | 6/17 | 1/18 | 比較 |
|---------------------|------|------|----|
| 学級を肯定的に受けとめているか | 12 | 12 | ±0 |
| 友達との関係を肯定的に受けとめているか | 13 | 10 | -3 |
| 学級での自己存在感は高い、低い | 11 | 10 | -1 |

F 児は、ふり返りの感想に『この人はだれでしょう？交流会』で 2 号車の人が、静かに自分が出す問題を聞いてくれたこと、自分にちゃんと答えを言ってくれたことがうれしかった。自分の元気を 100%だすことができ満足。クラスは、自分も含め、男女話すことが増えてきたけど、その分、ケンカもある。自分は、友達がちょこっと増えたと思う」と書いた。不安感から友達になかなか心を開かず、会話や関わりを拒む F 児である。「会話は増えたが、その分ケンカもある」と書いたところに F 児が「友達にかかわることは、必ずしもいいことばかりではない」と思っていることがわかる。がばいシート(6/17 と 1/18 の比較)の『友達関係』が-3 ポイントなどは、その現れであろう。しかし、それでも F 児は、感想に「友達が、ちょこっと増えた。」と書いている。担任は、F 児に、友達に関わろうとする意欲が見られるとまでは言い切れないが、迷いつつも友達に関わることに関心を向け始めているということを感じている。

・G 児(男子:V1 組 交流学級 6 年 2 組)

G 児は劣等感が強く、被害者意識を持ち、友達を否定的に捉えることが多い児童である。いじめアンケートの聞き取りで、「あいつは、ぼくに〇〇をしてくる。でも、ぼくは弱いから、仕返しをすることができない」という意味のことを話すことがあった。G 児は、ふり返りの感想に『ごちゃまぜビンゴ』交流会は、いろんな人と話すことができて、うれしかった。『こ

| 項 目 | 6/17 | 1/18 | 比較 |
|---------------------|------|------|----|
| 学級を肯定的に受けとめているか | 10 | 16 | +6 |
| 友達との関係を肯定的に受けとめているか | 11 | 12 | +1 |
| 学級での自己存在感は高い、低い | 11 | 19 | +8 |

G 児は、ふり返りの感想に『ごちゃまぜビンゴ』交流会は、いろんな人と話すことができて、うれしかった。『こ

の人はだれでしょう?』交流会は、ちょっと恥ずかしかったけど、問題をちゃんと言えて、3号車が盛り上がったのでうれしかった。今は、話す友達が6人増えて、目を合わせる友達も6人増えて、笑顔になる人も増えた。クラスの人が好きになった」と書いた。がばいシート(6/17と1/18の比較)見ても、『学級、友達関係の肯定的受けとめ』が上がり、『自己存在感』が高まっていることがわかる。G児の6年2組での様子を見ても、G児の笑顔、会話、自分から友達に関わる姿が増えた。

・H児(男子:V2組 交流学級6年1組)

H児は担任に「先生、ぼく、引っ込み思案です」とよく述べる児童である。支援学級でも、パーティーションで仕切られた自分専用の部屋で、一人遊びをしたり、一人で勉強したりすることが多い。交流学級でも、支援学級でも一人で過ごすことが多いため、友達と関わるのが少ない。また、自分に自信がもてず、「クラスメイトは自分を認めてくれている」という気持ちが高い。H児は、感想に『この人はだれでしょう?交流会』で自分のよさを、みんなにはっきり言えてうれしかった。前と比べて、いっしょに話す友達が増えた」と書いた。がばいシート(6/17と1/18の比較)見ても、少しではあるが、『学級、友達関係の肯定的受けとめ』、『自己存在感』が高くなっていることがわかる。H児は、少しずつ6年1組の中で承認感を高め、自分への自信を高めていることが窺える。

| 項 目 | 6/17 | 1/18 | 比較 |
|---------------------|------|------|----|
| 学級を肯定的に受けとめているか | 13 | 15 | +2 |
| 友達との関係を肯定的に受けとめているか | 15 | 16 | +1 |
| 学級での自己存在感は高い、低い | 13 | 14 | +1 |

・I児(男子:V2組 交流学級6年1組)

I児は、友達に関心を示さず、自分に閉じこもることが多く、周りの人が見えないため、担任や友達の言動が理解できず、集団行動等に支障をきたすことがある児童である。I児は、ふり返りの感想に『ごちゃまぜビンゴ交流会』のとき、友達が自分の答えを出してくれて楽しかった」と書いた。がばいシート(6/17と1/18の比較)見ると『学級の肯定的受けとめ』が+3ポイント、『友達関係の肯定的受けとめ』が+2ポイント、『自己存在感』が+2ポイント上昇していた。I児は、『ごちゃまぜビンゴ交流会』で交流学級の友達が、たくさん自分のところに来てくれて、自分のこと(答え)を当ててくれたことを、とても喜んでいた。I児は、少しずつクラスや友達を肯定的に受けとめようとする意識が育ってきていると思う。

| 項 目 | 6/17 | 1/18 | 比較 |
|---------------------|------|------|----|
| 学級を肯定的に受けとめているか | 14 | 17 | +3 |
| 友達との関係を肯定的に受けとめているか | 13 | 15 | +2 |
| 学級での自己存在感は高い、低い | 13 | 15 | +2 |

・J児(女子:V2組 交流学級6年1組)

J児は、自分に自信がもてず、友達に関わることに不安と遠慮がある児童である。J児は、ふり返りの感想に『ごちゃまぜビンゴ交流会』で、今まであまり話したことがない人と話すことができ、とっても楽しかった。みんな笑顔でうれしかった。1学期は、あまり話したことがない人が多かったけど、2学期や3学期は、話す人が増えた。少し自分は変わったと思う」と書いていた。がばいシート(6/17と1/18の比較)見ると『学級の肯定的受けとめ』が+7ポイント、『友達関係の肯定的受けとめ』が+8ポイント、『自己存在感』が+9ポイントである(20ポイントが最高点数である)。J児の意識の変化には、驚くべきものがある。J児は確実に自分や友達を肯定的に受けとめようとする気持ちを育て、自信を高めていると考えられる。

| 項 目 | 6/17 | 1/18 | 比較 |
|---------------------|------|------|----|
| 学級を肯定的に受けとめているか | 13 | 20 | +7 |
| 友達との関係を肯定的に受けとめているか | 12 | 20 | +8 |
| 学級での自己存在感は高い、低い | 11 | 20 | +9 |

5. 考 察

I 児以外の 5 名は、感想に「話す友達が増えた」、「友達が増えた」、「友達が好きになった」と書いている。感想には「友達が増えた」等を書かなかった I 児も『学級の肯定的受けとめ』、『友達関係の肯定的受けとめ』、『自己存在感』のポイントが上昇している。この結果を出すことができた要因は、2 つあると考えられる。

まず、1 つ目の要因について述べる。今回の取り組みは、支援学級の児童を、交流会でゲームやクイズを通して交流学級の児童に関わらせることをメインとした実践であった。そのため、6 名の児童に、人に関わるゲームやクイズに慣れさせ、交流会の実践に見通しを持たせ、安心感を抱かせる必要があった。そのため、小集団内(6名)でお互いを肯定的に理解し合うゲームやクイズを実施した。

次に、交流会で行うゲームやクイズのミニゲーム、ミニクイズを実施して、大ゲームや大クイズ(交流会でのゲームやクイズ)のやり方やルール、その楽しさを理解させ、交流会実施への見通しと安心感をもたせた。このことが功を奏し、6 名の児童の活動意欲を高め、交流学級の友達とゲームやクイズを通しての、お互いの言動の肯定的受けとめ合い、認め合いを支えることになった。「生活の最も大きい割合を占める授業の時間に、グループによる意見交換を頻繁に行い、その際、友達の意見をしっかり聞くことを意識させていくことで、聞き合う雰囲気が少しずつできあがり、所属間や相互の関係性の高まり、他者理解や自己評価の向上につながっていった」(小宮山, 2015)と報告されているが、本実践の取り組みにも共通したところが多々あり、活動によって、児童における承認感や自己存在感を高めて、交流学級の児童との絆を深めることに繋がったものと推測される。

2 つ目の要因は、交流学級 6 年 1 組、2 組の児童らが、相手の気持ちを考える優しい性格であったことである。集団ゲームやクイズの本質は、やはり、人と人とが関わる中での楽しみにある。相手があることなのである。もし、支援学級の児童がクイズを出したとき、交流学級の児童が無視したり、強い口調で答えたり、おもしろくないそぶりを見せたりしたら、途端に支援学級の児童は「がんばろう(クイズを上手に出して関わり、一緒に楽しもう)」という気持ちを萎えさせてしまう。しかし、6 年 1 組、2 組の児童らは驚くことに、全員 6 名の児童に、好意的に付き合い、合わせてくれたのである。つまり、各児童が受容的態度で他児と接していたものと捉えられる。

「児童が受容的態度に対する肯定的な感情を抱くには、教師は特定の児童との関係性だけでなく他の児童との関係性も良くすることが重要である」(大久保・加藤・江村・大沼, 2021)と言及されている。この見解から、担任が特定の児童との関係性だけでなく他の児童との関係性も良くするように努めていたことによって、全児童の受容的態度の形成に大きな役割を果たしたものと考えられる。

『ごちゃまぜビンゴ交流会』の時の 6 年 1 組、2 組の児童らは、笑顔で自ら 6 名のところに行き、ビンゴをしてくれた。『この人はだれでしょう?』交流会では、6 名の顔を温かく見つめて問題を聞き、楽しそうに答えを言ったり、おもしろい答えの時には笑ったり、すでに答え(名前)を言われた児童も最後まで 6 名が出す問題を好意的に聞いてくれ、答えを述べてくれた。この 6 年 1 組、2 組の児童らの優しさが支援学級 6 名の児童の活動意欲を支えてくれたものと判断される。

では、なぜ、交流学級 6 年 1 組、2 組の児童らが、このように優しい態度でいたのか。その理由として、元々この児童らが人を好意的に受け入れる温かさを持っているということ、及び 6 年 1 組、6 年 2 組の担任が、温かい人権意識に満ちた学級経営をされていることにあると言える。そのような取り組みがなされれば、児童の自己存在感を高めることに影響を及ぼす。

自己存在感については「自尊感情のことであり、自分は価値のある存在であるという実感である。このため、担任は、各児童を「かけがえのない存在として捉え、児童生徒の個別性、独自性を大切に指導することが求められる」(井上, 2020)と指摘されている。したがって、本実践において、自閉症・情緒障害特別支援学級児童における承認感・自己存在感を高めて、交流学級の児童との絆を深める自立活

動に成果があったのは、担任が児童に対して、受容的態度で接する姿勢を重視していたことによると判断される。

以上の2つの要因により、前述の結果を出すことができたことが窺える。

1つ目の要因については、本実践の成果と考えてよいだろう。しかし、2つ目の要因については、本実践の課題につながるものである。自立活動で交流学級と交流することをメインとする実践をする場合は、交流学級の担任の学級経営に協力しつつ、支援学級の担任も交流学級の児童らが、支援学級の児童に温かさを示してくれるようになるための手立てを取っていく必要がある。このことを明確にするのが今後の課題である。

6. 結 論

支援学級児童に、スモールステップで活動に慣れさせ、小ゲームで活動に安心感と見通しをもたせ、大ゲームで、交流学級の児童とお互いのよさの受けとめ合い、認め合いの成功体験を積み重ねれば、支援学級児童のクラスや友達を肯定的に受けとめる気持ちや自己存在感を少しずつ高め、交流学級で友達を少しずつ増やすことができるということが示唆された。その一方で、大ゲームで支援学級児童に成功体験を積み重ねるためには、交流学級の児童が、支援学級の児童に温かい言葉、まなざし、態度を向けるよう、支援学級の担任が交流学級の児童らに日常的に、どのように関わるか、また、自立活動の中で、どのような実践をするか、その手立てを探る重要性が示唆された。

引用文献

- 林田真一・松山郁夫（2019）自閉症・情緒障害特別支援学級の自立活動におけるストレンクス視点からの授業実践：「ストロー竹とんぼを友達と一緒に作り、飛ばして楽しもう」の取り組みを通して。佐賀大学教育実践研究，37，99-111.
- 林田真一・松山郁夫（2020）自閉症・情緒障害特別支援学級の自立活動におけるストレンクス視点からの授業実践と課題：「ゴムロケットをみんなで飛ばして楽しもう」の取り組みを通して。佐賀大学教育実践研究，38，125-134.
- 井上浩史（2020）今、教師と学校に求められていること：生徒指導の観点で考える力のある教師・学校とは。同志社大学教職課程年報，9，78-90.
- 小宮山めぐみ（2015）児童の承認感を高める学級集団の育成過程。教育実践研究，25，271-276.
- 直島克樹（2022）システムの変革を担うソーシャルワークの理論的枠組みへの考察—ミクロからマクロレベルの連動性とストレンクス視点の結びつきに着目して—。川崎医療福祉学会誌，32(1)，31-47.
- 大久保智生・加藤弘通・江村早紀・大沼泰枝（2021）教師の受容的態度と学級での三者関係が児童の感情に及ぼす影響。香川大学教育実践総合研究，42，37-48.

参考文献

- 石井哲夫（1995）『自閉症と受容的交流療法』中央法規出版.
- 小泉令三・山田洋平（2011）『社会性と情動の学習（SEL－S8Sの進め方）』ミネルヴァ書房.
- 文部科学省（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』
- 村田豊久（2016）『自閉症』日本評論社.
- オゼキサム（2019）『言葉の力～語彙で広がる世界～』旺文社.
- 佐賀県教育委員会（2019）『特別支援学級及び通級指導教室担任のための手引き』
- すぎむらなおみ＋「しーとん」（2010）『発達障害チェックシートできました』生活書房.

田中和代・岩佐亜紀（2008）『高機能自閉症・アスペルガー障害・ADHD・LD の子の SST の進め方』黎明書房.

上野一彦・岡田智・森村美和子・中村敏秀（2012）『特別支援教育をサポートする 図解 よくわかる SST 実例集』ナツメ社.

渡辺弥生・藤枝静暁・飯田順子編（2019）『小学生のためのソーシャルスキル・トレーニング』明治図書.